



## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月15日

上場会社名 株式会社ツナググループ・ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 6551 URL https://tghd.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米田 光宏  
 問合せ先責任者(役職名) 財務戦略室室長 (氏名) 沼畑 正輝 (TEL) 03-3569-2790  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年9月期第2四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA※		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	7,388	21.9	255	61.6	412	30.2	256	66.5	169	35.1
2022年9月期第2四半期	6,061	3.0	158	—	316	—	154	—	125	—

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 161百万円( 31.3%) 2022年9月期第2四半期 123百万円( —%)  
 ※調整後EBITDA(営業利益+減価償却費及びのれん償却費)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	19.89	19.59
2022年9月期第2四半期	14.80	14.60

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	5,088	1,655	30.7
2022年9月期	5,209	1,536	27.5

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 1,561百万円 2022年9月期 1,433百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年9月期	—	0.00	—	—	—
2023年9月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期	14,700	15.5	400	85.6	710	30.5	400	87.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	8,572,022株	2022年9月期	8,540,192株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	14,291株	2022年9月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	8,545,410株	2022年9月期2Q	8,501,884株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来予測情報の適切な利用に関する説明）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手している情報に基づき当社が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による社会活動における制限は緩和され、緩やかながらも景気回復の動きが続いています。国内の雇用情勢につきましては、引き続き飲食業・小売業などでにぎわいが戻りつつあることに加え、宅配需要増加による物流業での人手不足が深刻化しており、2024年の働き方改革関連法によってドライバーの雇用ニーズは今後も上昇し、人手不足が続くことが予想されます。2023年2月の有効求人倍率は1.34倍（季節調整値）と前年同時期から0.13ポイント上昇しています。雇用者数もこのところ持ち直しの動きがみられ、新規求人数も前年同時期からおよそ1割上昇しております。

このような環境のもと、当社グループは飲食業・小売業・物流業へのサービス提供に注力し売上高は高成長を維持しており、前年同期比で21.9%の増収となりました。

費用面においては、この成長基調を維持・拡大させるために、営業支援・労務支援のシステム投資や人的資本への投資を積極的に進めております。また、売上高の成長に伴い、原価および広告費（求職者集客費）、販売促進費（代理店販売委託費）などの変動費が増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高7,388百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益255百万円（前年同期比61.6%増）、経常利益256百万円（前年同期比66.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益169百万円（前年同期比35.1%増）、営業利益よりのれん及び減価償却費影響を除いた調整後EBITDAでは412百万円（前年同期比30.2%増）となりました。

また、当第2四半期連結会計期間においては、売上高3,871百万円（前年同期比19.0%増）、営業利益212百万円（前年同期比46.9%増）、経常利益213百万円（前年同期比50.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益136百万円（前年同期比13.3%増）となりました。

当社グループの各セグメント別の業績は以下のとおりであります。

#### (ヒューマンキャピタル事業)

ヒューマンキャピタル事業におきましては、企業の採用活動を総合的に支援する「RPOサービス領域」、ITテクノロジーを駆使した人材マッチングサービスを提供する「DXリクルーティング領域」、シニア・主婦・あるいは短期単発といった求職者のニーズに対して様々な求人メディアサービスを提供する「セグメントメディア領域」などがあります。

RPOサービス領域では、第1四半期に引き続き、人流回復・インバウンド需要増等で市況が回復している飲食業・小売業の大手企業を中心に採用意欲が高い状態が続き、求人倍率が上昇する中で、最適な集客手法・プロセスの提案を推し進め、売上高が前年同期比でおよそ2割の増加となりました。

DXリクルーティング領域では、ビッグデータとアドテクノロジー（広告配信技術）を駆使したダイレクトリクルーティングサービス『Findin(ファインドイン)』を中心に、上記RPOサービス領域における集客手法の課題解決の一助となったこともあり、売上高が前年同期比でおよそ7割増加いたしました。

セグメントメディア領域では、上記DXリクルーティングを推し進めたこともあり、レギュラーワークメディアは横ばいとなりつつあるも、短期単発バイト専門サービス『ショットワークス』は、コンビニ事業者からのニーズ増加や各種イベントの再開などを受け、売上高が前年同期比でおよそ2割増加いたしました。

これらの結果、ヒューマンキャピタル事業における売上高は5,754百万円（前年同期比16.7%増）、営業利益は279百万円（前年同期比89.7%増）となりました。

#### (スタッフィング事業)

スタッフィング事業におきましては、人材派遣及び日々紹介をおこなう派遣・紹介領域、派遣スタッフの研修店舗を兼ねたコンビニ店舗を運営するコンビニ領域があります。

派遣・紹介領域につきましては、倉庫・物流系企業への派遣に注力し、売上の基盤づくりを行ってまいりました。加えて、人材紹介事業では派遣会社向けのサービスを開始し、新たな成長の柱づくりにも注力しております。この領域は昨年、株式会社LeafNxTを設立し事業化フェーズにあります。市場の後押しも受けて3月は単月での黒字となりました。

コンビニ領域は、旅行・出張などの人流の回復に加え、全国展開している利点を活かし地域の季節ずれを仕入れ・販売強化に用いたことにより、売上が前年同期比でおよそ1割増加いたしました。

これらの結果、スタッフینگ事業における売上高は1,838百万円（前年同期比59.0%増）、営業損失は9百万円（前年同期は0百万円の損失）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ121百万円減少し、5,088百万円となりました。これは主に売掛金が360百万円増加したことや、現金及び預金が273百万円、流動資産その他に含まれる未収還付消費税が71百万円、顧客関連資産が52百万円及びのれんが37百万円減少したことによるものです。

### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ240百万円減少し、3,432百万円となりました。これは主に流動負債その他に含まれる契約負債が148百万円増加したことや、長期借入金395百万円減少したことによるものです。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ119百万円増加し、1,655百万円となりました。これは主に利益剰余金が127百万円増加したことや、非支配株主持分が8百万円減少したことによるものです。

### （キャッシュ・フローの状況の分析）

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べ273百万円減少し、977百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、増加した資金は340百万円（前年同期は315百万円の増加）となりました。これは主に売上債権が360百万円増加した一方で、その他に含まれる契約負債の増加額148百万円、税金等調整前四半期純利益256百万円、減価償却費119百万円及び仕入債務の増加額104百万円があったことによるものです。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、減少した資金は60百万円（前年同期は123百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出17百万円、無形固定資産の取得による支出35百万円があったことによるものです。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、減少した資金は553百万円（前年同期は327百万円の増加）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出502百万円、配当金の支払額41百万円があったことによるものです。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

営業利益および経常利益は、雇用情勢の回復を受け売上高が業績予測より伸長したことに加え、今期推し進めてまいりました事業会社の原価および外注費等のコストコントロールにおける収益構造改革の効果により、営業利益、経常利益ともに通期の予想を上回る見通しとなりました。

詳細については、本日2023年5月15日に公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,250,978	977,379
売掛金	1,198,572	1,558,859
商品	59,406	62,632
未収入金	351,992	339,241
その他	255,284	167,698
貸倒引当金	△2,346	△2,577
流動資産合計	3,113,889	3,103,234
固定資産		
有形固定資産	207,857	207,546
無形固定資産		
のれん	356,912	319,540
顧客関連資産	819,638	766,758
その他	424,552	412,808
無形固定資産合計	1,601,103	1,499,107
投資その他の資産		
その他	286,949	278,519
貸倒引当金	△350	△350
投資その他の資産合計	286,599	278,169
固定資産合計	2,095,560	1,984,823
資産合計	5,209,449	5,088,057

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	426,165	531,144
短期借入金	308,944	300,000
1年内返済予定の長期借入金	348,991	242,591
未払法人税等	174,307	125,727
賞与引当金	124,234	205,555
未払金	566,206	625,619
その他	349,290	443,260
流動負債合計	2,298,140	2,473,898
固定負債		
長期借入金	1,065,021	669,325
その他	309,763	288,978
固定負債合計	1,374,784	958,303
負債合計	3,672,925	3,432,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	696,651	699,014
資本剰余金	604,770	607,133
利益剰余金	132,336	259,629
自己株式	-	△4,138
株主資本合計	1,433,758	1,561,638
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△40	△13
その他の包括利益累計額合計	△40	△13
非支配株主持分	102,806	94,229
純資産合計	1,536,524	1,655,854
負債純資産合計	5,209,449	5,088,057

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
売上高	6,061,882	7,388,531
売上原価	3,048,650	4,056,413
売上総利益	3,013,232	3,332,118
販売費及び一般管理費	2,855,106	3,076,634
営業利益	158,126	255,483
営業外収益		
受取利息及び配当金	431	30
受取手数料	4,436	2,260
違約金収入	1,310	600
倒産防止共済解約手当金	4,808	-
その他	2,702	3,213
営業外収益合計	13,687	6,104
営業外費用		
支払利息	5,975	4,021
支払手数料	11,007	602
その他	520	94
営業外費用合計	17,502	4,718
経常利益	154,311	256,869
特別利益		
固定資産売却益	-	15
特別利益合計	-	15
税金等調整前四半期純利益	154,311	256,884
法人税、住民税及び事業税	68,957	120,258
法人税等調整額	△37,698	△24,791
法人税等合計	31,258	95,466
四半期純利益	123,052	161,417
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,802	△8,576
親会社株主に帰属する四半期純利益	125,855	169,994

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	123,052	161,417
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△51	27
その他の包括利益合計	△51	27
四半期包括利益	123,001	161,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	125,804	170,021
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,802	△8,576

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	154,311	256,884
減価償却費	115,111	119,204
のれん償却額	43,228	37,371
賞与引当金の増減額(△は減少)	83,495	81,320
受取利息及び受取配当金	△431	△30
支払利息	5,975	4,021
固定資産売却損益(△は益)	-	△15
売上債権の増減額(△は増加)	△343,483	△360,286
棚卸資産の増減額(△は増加)	10,531	15,374
仕入債務の増減額(△は減少)	49,819	104,978
未払金の増減額(△は減少)	121,276	58,035
その他	112,707	196,117
小計	352,543	512,977
利息及び配当金の受取額	431	30
利息の支払額	△5,758	△4,021
法人税等の支払額	△31,690	△168,839
法人税等の還付額	-	625
営業活動によるキャッシュ・フロー	315,526	340,773
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△29,446	△17,801
有形固定資産の売却による収入	-	182
無形固定資産の取得による支出	△101,693	△35,091
投資有価証券の償還による収入	29,820	-
敷金の差入による支出	△5,640	-
敷金の回収による収入	472	4,425
その他	△17,159	△12,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	△123,647	△60,919
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△63,672	△8,944
長期借入れによる収入	400,000	-
長期借入金の返済による支出	△217,455	△502,095
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	3,225
自己株式の取得による支出	-	△4,138
非支配株主からの払込みによる収入	209,000	-
配当金の支払額	-	△41,498
財務活動によるキャッシュ・フロー	327,871	△553,452
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	519,750	△273,598
現金及び現金同等物の期首残高	693,274	1,250,978
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	40,000	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,253,025	977,379

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフィ ング事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	4,928,253	1,128,404	6,056,658	5,224	6,061,882
外部顧客への売上高	4,928,253	1,128,404	6,056,658	5,224	6,061,882
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,752	27,484	31,237	△31,237	—
計	4,932,006	1,155,888	6,087,895	△26,012	6,061,882
セグメント利益又は損失(△)	147,156	△265	146,891	11,234	158,126

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額11,234千円は、セグメント間取引消去2,183千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の純額9,051千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフィ ング事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	5,610,015	1,776,771	7,386,786	1,744	7,388,531
外部顧客への売上高	5,610,015	1,776,771	7,386,786	1,744	7,388,531
セグメント間の内部 売上高又は振替高	144,241	61,407	205,648	△205,648	—
計	5,754,257	1,838,178	7,592,435	△203,904	7,388,531
セグメント利益又は損失(△)	279,138	△9,998	269,140	△13,657	255,483

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△13,657千円は、セグメント間取引消去1,309千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の純額△14,966千円であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。